

地質環境の長期安定性に関する研究委員会（地質学会）の活動 - - 高レベル放射性廃棄物の地層処分を考える - -

Activity on the committee on study of geo-environmental stability for geological disposal of HLRW(Geol. Soc. Japan)

渡辺 暉夫[1]

Teruo Watanabe[1]

[1] 北大・理・地球惑星

[1] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ.

表題研究委員会は、環境地質研究会と密接な連絡をとりながら、高レベル放射性廃棄物の地層処分を地質学の立場から学術的に検討することをし目的として、日本地質学会では2000年12月の評議員会において発足が承認された。委員会は関連分野の24名よりなる。

これまで、3回の集会(2回は勉強会)を開催し、委員会の構成と核燃料サイクル機構の2000年レポートの学習、地層処分の考え方、その問題について専門家からの報告をうけた。

これまで話題にされたことは

- 1) 地層処分か地表管理か?
- 2) 地震に対する考え方に問題はないか? 鳥取西部地震をどう考えるか?
- 3) 放射性物質の人間生活への影響
- 4) 地下微生物の存在
- 5) 道北の地下構造の最新データ
- 6) 委員会の役割は何か

であった。委員会はサブグループとして構造、活断層、地下水流動、火山、変質、生態、地震、総合を設けており、委員はいずれかのグループに属して個別に問題を深める。

現在、研究委員会の役割として以下の3点のどの道を選ぶかが委員会に問いかけられている。

- 1) 地層処分サイト選定に係わる地殻変動に関する情報/考え方のみを提示する。
- 2) 地質環境の「緩慢な変動」についての調査手法/考え方も同時に提示する。
- 3) これらと併せて調査技術の部分も含めて委員会の検討範囲とする。

既知の理論やデータに基づいて地層処分についてどこまで発言できるのか? 地質学のレベルが問われているのであろう。

本委員会のこれまでの勉強会の活動記録は地質学会ニュース7月号と12月号に詳しく紹介されている。